

校友会と約30万人の校友に 期待されるものは何か



小宮多喜次
専修大学校友会長

建学の精神、学風と絆を あらためて共有できる場が必要

新年あけましておめでとうございます。本年もよろしくお願ひ申し上げます。校友会は、一昨年の校友会創立130周年を契機に支部活動が一段と活性化しております。昨年も、多くの校友が支部活動をはじめ、様々な活動に参加され、母校愛と校友同士の絆を一層深めていただきました。おかげさまで、校友会と大学の発展に繋がっています。本年もこの傾向をより強めていき、校友会の一層の発展に繋げていきたいと考えております。

創立者4人の先生方に、私からは校友会の前身である、「専修学校同窓会」についてお尋ねしたいです。その設立は明治20年、「専修学校」の開校が明治13年ですから、開校からわずか7年後の同窓会発足です。4人の先生方に直接薫陶を受けた同窓生が大勢集まったことでしょう。この設立をどのようにお感じになったのか、お尋ねしたいですね。

4人の先生方は日本の近代の幕開けの時代に、列強国で先進の学問を学んでこられました。私の推測ですが、単に学校で学術的知識を講義す

るだけでなく、学生が卒業後、社会で如何に活躍するか、大きな期待があったと思います。その点から、同窓会に何を期待されるかお尋ねしたいと思いました。

この問いかけに対して、4人の先生方はなんと答えるでしょうか？「同窓会は社会に散らばった卒業生が再び一堂に集まり、学校での経験や学びの感動をひととき大きな輪にしていく場であるべき」と語られるのではないのでしょうか。先生方は留学先で、見るもの、聞くこと、それら一つひとつの体験が、自身を変え、社会を変えて、やがては国を変える原動力になると確信されました。同窓会とは、社会に出た卒業生が建学の精神である「報恩奉仕」と学風「質実剛健・誠実力行」を確認しあい、実行していく場だという認識をお持ちなのでは、と考えています。

創立者の先生方にもしお会いできるのであれば、大学そのものの発展もさることながら、建学の精神を受け継いだ約30万人の卒業生がいること。その卒業生の会である校友会が大きく発展し、海外を含め全国に324支部があり、支部活動を中心に年間を通して様々な行事を実施していること。また、その校友会が物心

両面で継続して母校への支援協力をしていること。それらを見ていただきたいと思います。またご自分達が小説や映画になっていることもぜひお知らせしたい。映画は思いもよらなかったでしょうね(笑)。

現在、ビッグプロジェクトとして神田キャンパスの大学創立記念事業があります。このような時にこそ、全国の校友が一丸となって大学への支援協力を強く進めていく必要があると考えています。そこで大学創立記念事業への協賛、特に募金キャンペーンの展開を校友会の最重要事業に掲げておりますので、校友のみなさんには、ぜひ、ご協力のほどお願い申し上げます。

神田新校舎では長年の念願である校友サロン（仮称）を設置していただけるようお願いしております。新学部の設置、商学部の神田移転などにより神田キャンパスは大変賑やかになるとのことですが、サロンの設置実現に向けて鋭意検討、調整していただいております。どのような形になろうとも、校友が集い、母校に誰もが立ち寄れる場として、母校愛を育み、校友の絆を一層深められる場が設けられることを期待しております。（談）